

# 幼児教育系短期大学生が持つ 理想の保育者・幼児教育者像に関する一考察

—マインドマップの分析から—

山鹿 貴史、寺尾 謙

A Consideration on The Ideal Image of An Early Childhood Educator Possessed  
by Junior College Students in Department of Early Childhood Education  
: From An Analysis of Mind Map

YAMAGA Takashi , TERAOKEN Ken

キーワード：幼児教育、保育者養成、保育者像、保育者論、マインドマップ

## 1 はじめに

近年、保育現場を取り巻く諸問題は、すでにその多くが社会問題として認識されるに至っている。慢性的な待機児童問題や早期離職を含めた保育士・保育教諭不足などはその最たるものであるが、そうした最中、2017年には幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂<sup>1)</sup>があり、同年11月には「教職課程コアカリキュラム」、12月には「保育士養成課程等の見直しについて(検討の整理)」が公表され、2018年4月には前述の「保育士養成課程等の見直しについて(検討の整理)」がとりまとめられたことを踏まえた、「指定保育士養成施設指定基準」の一部が、2019年4月1日より施行されることが発表された。

その一方で、保育者養成校に入学する学生は保育者志望者がほとんどであり、総じて若年層の保育者への志望度は未だ根強い。ソニー生命保険株式会社の2017年の調査(全国の中中学生200名、高校生800名、合計1,000名の有効サンプルの集計結果)によると「将来なりたい職業」の項目において、「保育士・幼稚園教諭」は女子中学生・女子高校生ともに6位と、今日においても依然、特に女性に人気が高い職種であることが窺える。ところが、幼稚園教諭については、2016年度の文部科学省の「学校教員統計調査」によれば、平均勤続年数は、公立では14.2年(男性15.5年、女性14.2年)、私立では9.6年(男性19.7年、女性9.0年)で、国公私立全体では10.5年(男性19.0年、女性9.9年)となっている。教員構成では、勤続年数5年未満の教諭比率が、私立幼稚園では、47.3%と約半数を占めるのが現状(国立は18.2%、公立は30.9%)であり、幼稚園教諭の勤続年数の短さがわかる。また、2016年度中に離職した各教諭の平均年齢は、幼稚園教諭が32.9歳であり、小学校教諭の54.1歳、中学校教諭の51.7歳、高等学校教諭の50.7歳と比較しても低い。離職者に占める30歳未満の比率も、小学校教諭が8.1%、中学校教諭が12.7%、高等学校教諭が16.8%であるのに対して、幼稚園教諭は61.0%を占める結果もあることから、早期離職者の多さがわかる。さらに、保育士に関しても離職率の高い職種でもあり、厚生労働省の2015年の調査<sup>4)</sup>では離職率は10.3%、民間保育所に限定す

れば実に 12.0%というデータが示されている。そうした背景があるにもかかわらず、短期大学で学んだ学生等の就職先は保育所が圧倒的に多く、幼稚園に関してはその 1/3 程度に留まっているというデータ<sup>5)</sup>もあり、こうした点から一口に「保育者」といっても、その実態については一様でないという現状が垣間見える。

しかし、近年の保育者養成に関する議論は、いかに専門性を高め、質の高い保育者を養成するかという傾向が強いのではないかと筆者は感じている。各養成課程とその科目の在り方への見直しが迫られる中、それらを問う前に、学生の実態を明らかにすることが必要ではないかと筆者は考えている。

保育者養成校は、今後どのように保育者養成を展開すべきなのか。本研究は、学生の抱く「理想の保育者・幼児教育者」へのイメージを明らかにし、それを手掛かりに今後の保育者養成の在り方を考察するものである。

## 2 先行研究とその課題

保育・幼児教育分野における「理想の保育者像」に関する研究は、これまでも一定数が存在している。国立情報学研究所が運営する NII 学術情報ナビゲータ「CiNii」で、タイトルに「保育者 理想」が含まれる論考を検索したところ、2019年1月6日現在で 33 件<sup>6)</sup>が検出された。

学生の持つ理想の保育者像を研究する意義について小沼（2017：192）は

つまり、子どもの「保育を受ける権利」と保育者の質の保障・量的な確保とを両軸として捉える必要がある。保育者の量的な確保を検討する際に、保育者養成課程における学生が職務に対する意識や意欲を維持できるような方略が重要である。そこでは、学生は保育士養成課程の入学時に、自分の思い描いていた保育者像や「理想自己」といった「自己概念」を認識する必要がある。そして、現場との乖離（ギャップ）を適宜修正していかななくてはならない。

としている。同様に烏丸（2016：41）は、保育者イメージが「保育士養成のための関連授業を受けることでどう変化するのかを調査」し、

将来のミスマッチを可能な限り少なくするために、養成校の教員はどのようなことに留意する必要があるのだろう。彼女らは何に困り、どこで躓いてしまうのか。この問題について原因を探ろうとする試みは、彼女らを支えるための大きな力となるはずである。

と、その意義を説いている。

理想の保育者像に関する先行研究における手法としては、その多くで調査者が作成した質問紙への回答を行わせるアンケート調査（質問紙調査）や、対象者が作成した自由記述文へのテキストマイニングによる質的データ分析（計量テキスト分析）を行っていることがわかった。とりわけ、テキストマイニングの手法を用いた質的データ分析については、その他の研究分野においても近年盛んに行われている研究手法であり、その有効性<sup>7)</sup>については既に確認されている。しかしテキストマイニングの手法による研究では、特に若年層の学生を対象とした場合、①考えながら文章記述を行うため自由な発想力が発揮し難い点、②回答時間によっては本来回答しようとした文章量を記述できず、無効な回答となる場合があり得る点が指摘できる。

烏丸 (2016) の研究は「保育者」で始まる文章を学生に書かせ、その文章をテキストマイニングすることで分析を行っているが、文章を書かせる前に「保育者」に関するマインドマップ<sup>8)</sup>を作成させているという点が他の研究には見られない特徴<sup>9)</sup>である。しかし作成されたマインドマップ自体については、その分析対象とはしていない。

### 3 研究方法

そこで本研究では、学生に「理想の保育・幼児教育者像」というテーマでマインドマップを作成させ、そこで出現した文字列やキーワード等を手掛かりに、学生が抱いている理想の保育者・幼児教育者像を導出することとした。

マインドマップとは Tony Buzan によって発明された思考方法・ノート術である。その特徴<sup>10)</sup>は

- a) 中心イメージを描くことにより、関心の対象を明確にする。
- b) 中心イメージから主要なテーマを <sup>ブランチ</sup>枝 のように放射状に広げる。
- c) ブランチには関連する重要なイメージや重要な言葉をつなげる。
- d) あまり重要でないイメージや言葉も、より重要なものに付随する形で加える。ブランチは、節をつなぐ形で伸ばす。

とされており、またノート術としてのマインドマップの利点については、

- ・関連語だけを書くので時間を節約できる (50 から 90 パーセント)。
- ・関連語だけを読むので時間を節約できる (90 パーセント以上)。
- ・無用な言葉のなかからキーワードを探す必要がないので時間を節約できる (90 パーセント以上)。
- ・要点への集中力が高まる。
- ・キーワードが目につきやすい。
- ・キーワードが近くに並んでいるので、創造力と記憶再生力が高まる。
- ・キーワードとキーワードのつながりが明確で適切である。
- ・マインドマップの作成中は、新しい発見と認識が絶えず起こり、思考の流れが妨げられることなく続く。

とされている。これらの特徴から筆者は、学生が有する理想の保育者・幼児教育者像を導出する上では、マインドマップを用いた調査・分析が適していると考えた。

調査対象は、A 短期大学保育学科 (通信教育課程) の教職課程在学学生とした。詳細は以下のとおりである。

### 1) 調査対象者

A 短期大学保育学科（通信教育課程）に在籍する、スクーリング授業実施会場校の B 専門学校での受講生計 75 名（男性 13 名、女性 62 名）。

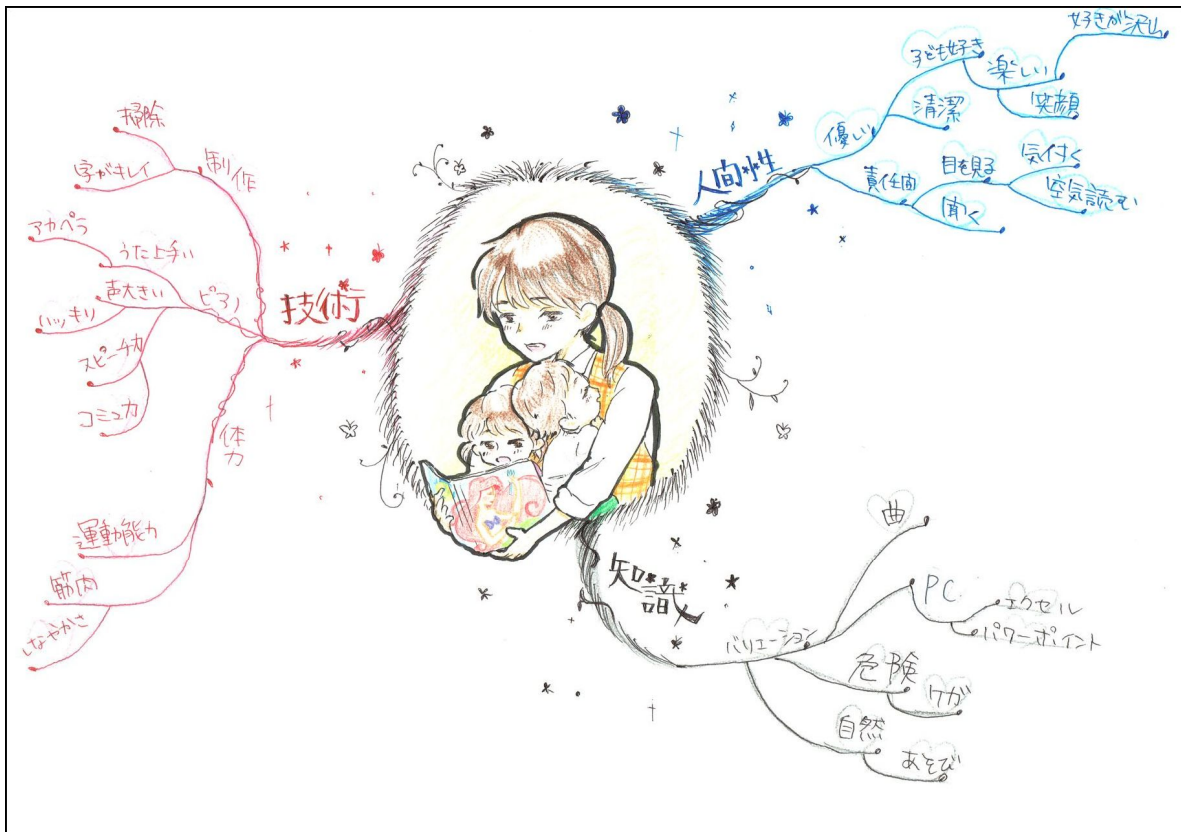
### 2) 調査時期および各回の人数内訳（履修年次は全員 1 年次）

- 2018 年 8 月（13 名）
- 2018 年 9 月（16 名）
- 2018 年 10 月（16 名）
- 2018 年 11 月（15 名）
- 2018 年 12 月（15 名）

### 3) 調査方法と内容

まず筆者（山鹿）の担当する科目「情報処理論」（A 短期大学における教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目「情報機器の操作」に該当）の受講生<sup>1)</sup>に協力を得て、30 分ほどの時間をかけてマインドマップについて、ならびに作成方法についてスライド等を用いて教示した。次に「理想の保育・幼児教育者像」というテーマで、概ね 30 分ほどで学生にミニマインドマップを書かせた。この際、目標語数は 50 個以上を目安とした。そして作成されたミニマインドマップを基に、フルマインドマップを描画させた。作成に要した時間はミニマインドマップ作成～フルマインドマップ完成までで平均 1 時間～1 時間半程度となった。

図 1 学生の制作したマインドマップ（フルマインドマップ）



次に、学生の描画したマインドマップから記載された要素を抽出し、表計算ソフトウェアへ手作業による入力集計を行った。抽出した要素は①セントラル・イメージ（以下 CI）、②ベーシック・オーダーリング・アイデア（今回の作図では「サブテーマ」に該当、以下 BOI）、③キーワード<sup>1 2)</sup>、の3つである。

#### 4) 分析方法

この作成されたフルマインドマップに用いられていた BOI ならびにキーワード（文字列）データを、文書作成ソフトウェア上でそれぞれ一行となるように加工し、株式会社ユーザーローカルの「ユーザーローカル テキストマイニングツール」(<https://textmining.userlocal.jp/>)<sup>1 3)</sup>により、①BOI、キーワードそれぞれにおける頻出単語の解析・検出を行い、その後、②CI で何が描かれていたかの順位付けを行った。

#### 5) 倫理的配慮

調査を行うにあたり、事前に A 短期大学より調査に関する同意を得た。調査対象者へは、筆者から口頭で調査趣旨を説明するとともに、調査同意書の本文ならびに筆者の連絡先を明記した紙面を配布して同意を得た。その際、個人を特定するような利用はしないこと、調査対象物ならびにデータは教育・研究目的以外では使用をしないこと、調査へ参加および協力は個々人の任意であること等を併せて伝えた。

### 4 集計・解析結果

集計ならびに解析の結果は以下の通りである。

#### 1) BOI およびキーワードの総数ならびに内訳

BOI 総数：273（8月：47、9月：56、10月：63、11月：53、12月：54）

キーワード総数：2,371（8月：505、9月：587、10月：389、11月：431、12月：459）

#### 2) BOI 中の単語出現頻度

BOI から抽出した頻出単語は、以下の通りとなった。

表1 BOI 単語出現頻度（全期間、4語以上）

BOI 単語	全期間出現回数				
技術	23	見た目	9	表現	5
性格	16	保育者	8	人間関係	5
知識	15	その他	8	感情	5
能力	14	中身	8	遊び	4
理想	11	子ども	7	心	4
関わり	10	環境	7	仕事	4
必要	9	人柄	6	生活	4

出典：筆者集計データ

表2 BOI 単語出現頻度（月別、2語以上）

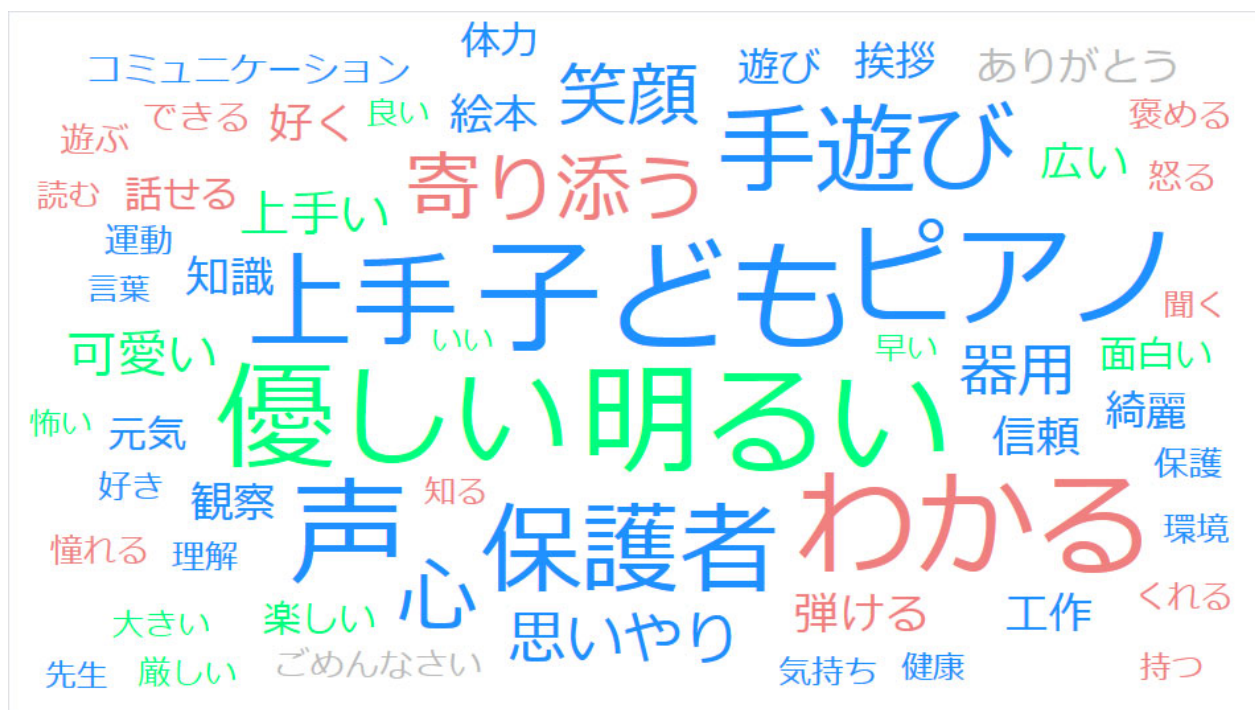
BOI	8月	BOI	9月	BOI	10月	BOI	11月	BOI	12月
単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数
技術	5	技術	7	技術	7	技術	8	関わり	5
人柄	4	知識	5	能力	7	性格	6	中身	4
表現	3	能力	4	性格	7	知識	5	技術	3
知識	3	保育者	3	理想	7	その他	4	能力	3
能力	3	技能	3	知識	6	関わり	4	見た目	3
環境	3	必要	3	必要	5	見た目	3	保育者	3
人間関係	3	性格	3	子ども	4	中身	3	子ども	2
領域	2	子ども	2	保育者	4	環境	2	理想	2
健康	2	心	2	技能	3	才能	2	資質	2
道具	2	その他	2	気持ち	3			感情	2
遊び	2			その他	3			イベント	2
感情	2			資格	3			必要	2
性格	2			見た目	3				
				運動	2				
				親	2				
				仕事	2				
				心	2				
				保育士	2				
				現実	2				
				遊び	2				
				恋	2				

出典：筆者集計データ

3) キーワード中の単語出現頻度

キーワードから抽出した頻出単語は、以下の通りとなった。

図3 キーワード中の単語出現頻度（全期間、ワードクラウド）



出典：筆者集計データ

表3 キーワード中の単語出現頻度（全期間、品詞別の上位抜粋）

■ 名詞	スコア	出現頻度	■ 動詞	スコア	出現頻度
子ども	90.93	83	できる	1.80	44
上手	71.24	69	くれる	0.65	23
ピアノ	78.90	58	遊ぶ	1.40	12
笑顔	38.98	57	好く	4.27	10
好き	1.54	33	怒る	1.17	10
元気	8.56	32	わかる	29.90	9
遊び	10.15	28	聞く	0.16	8
綺麗	9.39	28	寄り添う	15.00	8
知識	13.36	27	知る	0.18	8
声	82.12	19	教える	0.26	7
気持ち	2.04	19	分かる	0.25	7
挨拶	9.65	18	弾ける	4.84	6
体力	8.87	17	懂れる	0.98	6
保護者	65.40	16	褒める	1.45	6
信頼	12.19	16	話せる	2.49	6
手遊び	65.40	16	持つ	0.07	5
言葉	1.03	14	まとめる	0.30	5
先生	1.02	14	読む	0.08	5
絵本	13.32	14	見れる	0.34	5
器用	26.96	14	守る	0.23	4
理解	2.06	13	助ける	0.48	4
心	49.50	13	頼れる	9.29	4
環境	2.98	12	伝える	0.26	4
運動	3.94	12	寄り添える	9.29	4

■ 形容詞	スコア	出現頻度	■ 感動詞	スコア	出現頻度
優しい	29.56	54	ありがとう	9.29	4
明るい	31.47	38	ごめんなさい	3.17	2
可愛い	6.81	30	---	---	---
楽しい	2.19	24	---	---	---
上手い	6.74	20	---	---	---
面白い	2.20	18	---	---	---
良い	0.28	13	---	---	---
広い	4.75	12	---	---	---
大きい	0.70	9	---	---	---
やすい	0.52	9	---	---	---
いい	0.05	9	---	---	---
厳しい	0.95	7	---	---	---
怖い	0.28	7	---	---	---
強い	0.25	7	---	---	---
少ない	0.51	7	---	---	---

出典：筆者集計データ

表4 キーワード中の単語出現頻度（月別、3語以上）

キーワード	8月	キーワード	9月	キーワード	10月	キーワード	11月	キーワード	12月
単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数
ピアノ	11	上手	24	子ども	16	上手	28	子ども	18
笑顔	9	子ども	21	笑顔	14	子ども	19	笑顔	10
子ども	9	ピアノ	12	ピアノ	11	笑顔	14	ピアノ	10
遊び	7	好き	11	上手	9	ピアノ	14	遊び	9
言葉	6	知識	11	給料	8	好き	13	クリスマス	6
保護者	6	笑顔	10	元気	6	綺麗	8	元気	6
元気	6	綺麗	10	気持ち	5	声	8	知識	6
折紙	6	遊び	9	社会	5	元気	7	絵本	5
手遊び	6	環境	8	出会い	5	挨拶	7	保護者	5
地域	5	安心	7	休み	5	保護	5	遠足	4
遊具	5	元気	7	綺麗	5	信頼	5	豆まき	4
謙虚	5	声	7	技術	5	体力	5	ハロウィン	4
素直	5	挨拶	7	好き	4	コミュニケーション	5	綺麗	4
絵本	5	人間関係	6	知識	4	気持ち	5	手遊び	4
上手	5	言葉	6	先生	4	責任感	4	鬼ごっこ	3
音楽	4	体力	6	体力	4	歌	4	喧嘩	3
健康	4	工作	6	器用	4	周り	4	心	3
園	4	先生	5	観察	3	理解	4	上手	3
幸せ	4	対応	5	得意	3	心	4	保育士	3
心	4	器用	5	エプロン	3	協力	4	勉強	3
関わり	4	視野	5	優しさ	3	運動	4	礼儀	3
ダンス	3	想像力	5	歌	3	相談	3	アンパンマン	3
環境	3	アニメ	5	一緒	3	豊富	3	コミュニケーション	3
気遣い	3	お母さん	4	保護者	3	コミュニケーションカ	3	母	3
信頼	3	パソコン	4	理解	3	発達	3	好き	3
運動	3	気持ち	4	信頼	3	豊か	3		
先生	3	思いやり	4	上司	3	観察	3		
近隣	3	マナー	4	手先	3	掃除	3		
感謝	3	自然	4			清潔	3		
保護	3	衣装	4			丁寧	3		
気持ち	3	人気	4			遊び	3		
砂場	3	包容力	3			知識	3		
知識	3	信頼	3			仕事	3		
工作	3	判断力	3						
前向き	3	絵本	3						
		歌	3						
		表現	3						
		運動	3						
		好き嫌い	3						
		親	3						
		理解	3						
		素直	3						
		ルール	3						
		愛	3						
		手遊び	3						
		ダンス	3						
		ポジティブ	3						

出典：筆者集計データ



#### 4) CIの頻出度<sup>14)</sup>

CIの頻出度は、以下の通りとなった。

表5 全期間でのCI頻出順位<sup>15)</sup>

CI	全期間		
保育者	26	著作権キャラクター	5
人	14	地球	1
子ども	12	有名人	1
ハート	11	風船	1
植物(木・花)	11	病院	1
動物	6	太陽	1
ニコニコ顔	5	星	1

出典：筆者集計データ

## 5 考察

### 1) BOIで出現した単語について

今回のマインドマップ作成におけるBOIは、ミニマインドマップへ発散(拡散)思考で書き出したキーワードを、収束思考によりカテゴリ分けしたカテゴリ名である。すなわち、「キーワード」が学生の抱く「理想の保育者・幼児教育者」のイメージを思いつくまま無差別的に書き出したものであることに対し、「BOI」は学生自身が「理想の保育者・幼児教育者」にとって重要と位置付けて考えている要素であるといえる。

10回以上の出現回数上位の語として、技術(23回)、性格(16回)、知識(15回)、能力(14回)などの単語が導き出された。これは従来の研究と比較すると、例えば小沼(2017)や鳥丸(2016)の抽出語には見られない単語である。これは、従来の特に記述文章を対象としたテキストマイニングの手法による研究では、これらに区分される語が抽出されてきた一方で、今回それらの枠組みとして重要視できる単語が、マインドマップを対象とした本研究により見つけ出された結果といえる。

10回以下の単語としては、環境(7回)、表現(5回)、人間関係(5回)、関わり(10回)など、五領域またはそれに関連する単語、保育者(8回)、子ども(7回)、遊び(4回)、生活(4回)といった、幼児教育における重要頻出語が目立つ結果となった。これは、学生の置かれた環境的要因に影響を受けた結果であると推察できる。なお、BOIで出現した協力者1人あたりの単語について、調査時期による大きな差異は生じていないことを申し添えておく。

### 2) キーワードで出現した単語について

出現回数上位の語として、子ども(83回)、上手(69回)、ピアノ(58回)、笑顔(57回)、優しい(54回)、明るい(38回)、好き(33回)、元気(32回)、遊び(28回)、綺麗(28回)、知識(27回)といった語が導出された。一部BOIと共通する単語もあったが、これらの語は上記の先行研究等と比較しても、極めて一致度が高い語<sup>16)</sup>である。ここから考えられることとしては、調査対象者の思考の方法、また調査方法を変化させたとしても、幼児教育・保育系学生の考える理想像や保育者像には「共通したイメージ・認識」があるということである。なおキーワードで出現した協力者1人あたりの単語についても、調査時期による大きな差異は見受けられない結果となった。

### 3) CIで描かれた要素について

圧倒的に多かったのは保育者(26回)であり、これは本調査のテーマに因るものと推察される。また2位の人(14回)も含めて、作成者の自画像や将来の(理想の)姿というケースも多く見られた。

その次に多かった子ども(12回)も、BOIならびにキーワードでの出現回数上位の語でもあり、「保育・幼児教育=子ども」とイメージする学生が多かったことが窺える。またハート(11回)も、BOI、キーワードでそれぞれ複数回出現する心(BOI:4回、キーワード13回)に、ニコニコ顔(5回)も笑顔(キーワード57回)に近いイメージであり、それぞれに共通性を見出すことができる。

この他は植物(11回)<sup>17)</sup>や動物(6回)<sup>18)</sup>、著作権キャラクター(5回)<sup>19)</sup>が目立つ結果となったが、特に著作権キャラクターでは乳幼児を対象としたアニメキャラクターの絵が多く、この結果からは、それらが今日の幼児教育・保育へ与える影響の強さが見て取れる。

### 4) 小括

これら結果から、「理想の保育者・幼児教育者」に関するマインドマップ分析による本研究でも、従来の研究においても着目されてきたキーワードが多数導出されたこと、他方でBOIの解析からは従来の研究では抽出されてこなかった語を見つけ出せたこと、そしてCIの集計結果からは頻出キーワードに共通するイメージが上位を占めた一方で、動植物や著作権キャラクター等、幼児教育・保育に関連性の高いイメージも一定数見受けられるということがわかった。

## 6 結論

本研究のまとめとして、「保育者論」の視点からより良い幼児教育者養成の在り方について言及したい。

まずは「保育者論」に関わる「幼稚園教諭養成課程」と「保育士養成課程」におけるカリキュラム体系について、論じておきたい。幼稚園教諭養成課程は、大学・短大において「教職課程認定基準」の要件と「教職課程コアカリキュラム」の要件とを満たすことで認定される。保育士養成課程は、厚生労働大臣の指定する保育士を養成する学校その他の施設(以下「指定保育士養成施設」)において、「児童福祉法施行規則第6条の2第1項第3号の指定保育士養成施設の修業教科目及び単位数並びに履修方法」と「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準」との要件を満たすことが求められる。認定の仕方も要件も異なるので、幼稚園教諭養成課程をもつ大学・短大が、指定保育士養成施設として保育士養成課程を開講する際には、それぞれの法律等が規定する内容に留意して、カリキュラムを編成していく必要がある。

その上で、幼稚園教諭養成課程と保育士養成課程は、いずれも就学前の「幼児」を対象として教育及び保育を行う人材を養成する観点から、そのカリキュラムには共通に開設できる科目がいくつかあり、筆者は「保育者論」をその代表的な科目として位置付けている。「保育者論」のシラバス作成に当たっては、「教職課程コアカリキュラム」と「保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容」の両方の内容を踏まえて作成する必要<sup>20)</sup>がある。

保育者論のカリキュラムおよびシラバス策定の実際は、教職課程コアカリキュラムにおける「教育職員免許法及び同法施行規則に基づき全国すべての大学の教職課程で共通的に修得すべき資質能力を示すもの」であり、「各大学においては、教職課程コアカリキュラムの定める内容を学生に修得させたうえで、これに加えて、地域や学校現場のニーズに対応した教育内容や、大学の自主性や独自性を発

揮した教育内容を修得させることは当然である」と「教職課程コアカリキュラム作成の考え方」において示している。また、「教職課程コアカリキュラム」の各科目に示す「一般目標」は当該科目を履修することによって学生が習得する資質能力を内容のまとまりごとに示したものであり、「到達目標」は学生が一般目標に到達するために達成すべき個々の規準をあらわしている。このため、「一般目標」も「到達目標」も多様な内容を含みうる文言となっている。

一方、「保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容」は、「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準」に定める指定保育士養成施設（大学、短期大学、専門学校等）において、必ず開設しなければならない教科目と、その各教科目の目標とその目標を達成するための「教授内容」を示している。

そのため、「保育者論」のように、幼稚園教諭養成課程の科目を保育士養成課程の教科目として共通に開講する場合には、こうした幼稚園教諭養成課程の科目を規定する「教職課程コアカリキュラム」と、保育士養成課程の教科目を規定する「保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容」とのベースとする考え方が異なることを踏まえたうえで、それぞれの意味や含む内容について確認し、その両方を含むようにシラバスの記載内容を工夫する必要がある。その際、文言等は異なっても、意味は同じものを指していることもあることに留意しつつ、それぞれの趣旨を生かしたカリキュラム及びシラバスを策定する必要がある。

その上で、より良い幼児教育者養成を行うためには、「保育者論」のカリキュラム及びシラバス策定は、重要なことであることがわかる。改めて、本研究での考察、および抽出された「語」をカリキュラム及びシラバス策定に踏まえるに留まらず、各短期大学・大学における「アドミッション・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「ディプロマ・ポリシー」、「アセスメント・ポリシー」という各ポリシーの策定にも活用することにより、学生の抱く「理想の保育者・幼児教育者」へと導くことが可能となり、それこそが、より良い幼児教育者養成となるのではないかと、筆者は考える。

最後に、本研究の今後の課題を、3つ挙げたい。

第一に、通信教育（におけるスクーリング）の性質上、調査実施時期に一定の開きを要したことである。今回、75名の学生から協力を得て実施しているが、2018年8月から12月と開きがあるため、季節を連想させる「クリスマス」「ハロウィン」などのキーワードが出現する他、同じ1年次生ではあるが、履修の状況や修得した知識や単位にも差異があるため、それらの差異が理想像にどのような影響を及ぼしたかを検証する必要があった点がまず挙げられる。

第二に、分析対象者は75名であったが、調査対象としては1短期大学という限定的な分析と捉えられる要素を持つことである。一方で、従来の研究との共通性の一端を今回の調査では示すことができているため、この点については有益であったと評価したい。

第三に、マインドマップと文章とでの分析結果の比較はしていないので、どちらの手法がより学生の思い描く「理想の保育者・幼児教育者像」に近い結果を導出できるかについては、現段階では不明と言わざるを得ないところである。これらについては、今後の課題としたい。

## 7 役割分担

本研究の執筆にあたっては、調査の実施および対象物の回収、ならびに全体総括を山鹿が、分析・考察は山鹿、寺尾の両名が共同で行った。

## 8 謝辞

本研究を行うにあたり、A 短期大学、ならびに筆者（山鹿）の担当した「情報処理論」で協力頂いた授業実施会場校である B 専門学校および受講生各位に、この場を借りて感謝申し上げます。

また本研究では、株式会社ユーザーローカルの「ユーザーローカル テキストマイニングツール」(<https://textmining.userlocal.jp/>) によって分析を行ったこと、ならびに本研究が公益社団法人全国幼児教育研究協会の「平成 30 年度 研究助成制度」（「幼児教育系短期大学生が持つ「理想の保育・幼児教育者像」に関する研究」、研究期間：2018 年 4 月～2019 年 3 月、研究代表者：山鹿貴史）を受けた研究成果であることをここに付記する。

## 注

- 1) 施行は 2018 年（平成 30 年）4 月から。
- 2) 本稿において「保育者」の語意には、保育士ならびに幼稚園教諭が包含されているが、保育士については、保育所もしくは認定こども園で勤務する保育士を主としている。
- 3) とりわけ「保育者論」の科目は、保育士・幼稚園教諭の両養成課程の根幹を成すものの一つであり、重要な位置づけにあるものといえる。
- 4) 第 1 回保育士等確保対策検討会「資料 4 保育士等における現状」を参照。
- 5) 鶴川女子短期大学幼児教育学科（2018 年 5 月時点）では保育所 67.53%、幼稚園 19.15%、こども園 2.2%、公立保育所 4.3%、学童保育 1.1%、横浜女子短期大学保育科（2018 年度）では保育所 60.1%、幼稚園 22.5%、認定こども園 10.4%、香蘭女子短期大学保育学科では保育園（保育所）48.0%、幼稚園 24.3%、認定こども園 18.3%と、特に短期大学では保育所への就職率が高いという実態がある。
- 6) なお「保育 理想」だと 60 件、「教育 理想」だと 595 件が検出された。
- 7) 計量テキスト分析の利点については樋口（2014：13）を参照されたい。
- 8) マインドマップ®は英国 Buzan Organisation Ltd.の登録商標である。
- 9) 保育者ではないが、マインドマップ分析を特徴とした養護教諭に関する論考として大坂ら（2014）の報告がある。
- 10) その他の特徴等については、Tony Buzan・Barry Buzan（2005、2008、2013）を参照されたい。
- 11) 授業受講時は、全員が保育士資格ならびに幼稚園教諭 2 種免許状の取得希望者である。
- 12) 学生には原則として「単語」を用いるように教示したが、文章で記載しているケースも散見された。なお誤字や類似語については筆者の判断で同語への変換（「キレイ→綺麗」など）を行い、また著名人等を除いた個人や学校名等を特定できるような文字列は集計の際に省いた。
- 13) 今回用いたのは 2019 年 2 月 10 日時点公開のものである。
- 14) CI の頻出度は手作業により集計した。なお、各要素のカウントは出現毎の延べ回数である。
- 15) 「著作権キャラクター」は 5 つのうち 4 つが非同一である。内訳はアンパンマン（2 回）、クレヨンしんちゃん（1 回）、ドラえもん（1 回）、スヌーピー（1 回）である。
- 16) 例えば小沼（2017）の調査結果では「子ども」、「笑顔」、「寄り添える」といった語が抽出されている。烏丸（2016）の研究でも、2 回（入学直後と入学 1 年半後）の調査時期の違いを踏まえてなお「子ども」、「笑顔」、「ピアノ」、「元気」、「優しい」、「明るい」などの語が上位を占めており、

これは本調査結果とも一致する語である。

- 17) ここからは、幼稚園の祖たるフレーベルの思想が、今日の保育者養成教育に対しても今なお強い影響を及ぼしていることの一部を示しているということが推察できる。
- 18) 園によっては動物を飼育している所もあること、あるいは乳幼児向けアニメ等には動物を擬人化したキャラクターが多いということも、この結果に反映されているものと思われる。
- 19) 注 15 を参照。
- 20) それぞれの違いについては、「幼稚園教諭養成課程と保育士養成課程を併設する際の担当者及びシラバス作成について」(保育教諭養成課程研究会・日本保育者養成教育学会 2018)の「No. 2 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む)」と「保育者論」を参照されたい。

## 引用・参考文献等一覧

一般社団法人全国保育士養成協議会 <http://www.hoyokyo.or.jp/>

大坂 京子・奥田 紀久子・中窪 萌子・宮崎 久美子, 2014, 「学生が学修を通じて養われたと考える養護教諭に必要な資質能力 —教職実践演習における教職マインドマップの作成から—」  
徳島大学『大学教育研究ジャーナル 第 11 号』

鳥丸 佐知子, 2016, 「保育士養成関連授業は学生の何を変えたのか —「保育者」イメージを中心に—」  
京都文教短期大学『京都文教短期大学研究紀要 第 54 集』  
厚生労働省「保育士等確保対策検討会」

[https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-kodomo\\_310245.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-kodomo_310245.html)

香蘭女子短期大学「主な就職先」 <http://koran.ac.jp/academics/hoiku/career/>

小沼 豊, 2017, 「保育系短期大学生の理想とする保育者像に関する研究 —テキストマイニングの手法を用いた質的データの分析—」  
小田原短期大学『小田原短期大学研究紀要 第 47 号』

定村 美紀子・佐藤 亜月子・田中 樹・岡村 千鶴・堀之内 若名・田中 博子, 2018,  
「地域包括ケアシステムを推進する人材育成のための看護カリキュラムを目指して  
～マインドマップ理論を用いたワークショップの試み～」  
帝京科学大学『帝京科学大学紀要 第 14 巻』

ソニー生命保険株式会社「中高生が思い描く将来についての意識調査 2017」

[https://www.sonylife.co.jp/company/news/29/nr\\_170425.html](https://www.sonylife.co.jp/company/news/29/nr_170425.html)

知念 渉, 2017, 「教育原理では何が教えられてきたのか —教育原理の教科書分析—」  
日本教育学会『第 76 回 発表要旨集録』

鶴川女子短期大学「鶴川女子短期大学の就職率」

[https://www.tsurukawatandai.ac.jp/the\\_features\\_of\\_tsurukawa\\_womens\\_junior\\_college/employment\\_rate.html](https://www.tsurukawatandai.ac.jp/the_features_of_tsurukawa_womens_junior_college/employment_rate.html)

Tony Buzan・Barry Buzan (神田 昌典 訳), 2005, 『ザ・マインドマップ』ダイヤモンド社

Tony Buzan (神田 昌典 監修、近田 美季子 訳), 2008 『仕事に役立つマインドマップ 眠っている脳が目覚めるレッスン』ダイヤモンド社

- Tony Buzan・Barry Buzan (近田 美季子 訳), 2013, 『新版 ザ・マインドマップ』ダイヤモンド社.
- 中村 勝美, 2006, 「保育学生の保育者像と保育者養成教育に関する一考察」西九州大学『永原学園西九州大学・佐賀短期大学紀要 第36巻』
- 樋口 耕一, 2014, 『社会調査のための計量テキスト分析 内容分析の継承と発展を目指して』ナカニシヤ出版
- 保育教諭養成課程研究会・日本保育者養成教育学会, 2018, 「幼稚園教諭養成課程と保育士養成課程を併設する際の担当者及びシラバス作成について」  
<http://www.youseikatei.com/pdf/20180520.pdf>
- 文部科学省, 2018, 「平成28年度 学校教育統計調査」  
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400003&tstat=000001016172>
- 矢野 潔子, 2016, 「「子どもの保健」におけるマインドマップ活用の試み」静岡大学『静岡大学教育実践総合センター紀要 No.25』
- 横浜女子短期大学「就職実績」  
<https://www.yokotan.ac.jp/recruit/recruitresults.php>

(ウェブサイトの最終閲覧日は全て 2019年2月17日)

(受理日: 2019年2月26日)